

- 1 日 時：令和5年2月17日（金）5校時
- 2 教 科：国語
- 3 学 年：2年A組
- 4 単元名：根拠を吟味して書こう
- 5 単元について

単元における本質的な問い	単元における永続的理解
説得力のある意見文を書くためにはどうすればよいか。	説得力のある意見文を書くためには、根拠を明確に示すことが求められる。しかし、その根拠が適切なものでなければ説得力はうまれない。それゆえ、根拠が自分の考えを支えるものとして適切であるかどうか以下の二つの観点を軸に検討することが必要である。一つ目は、根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであるかどうか、二つ目は、その根拠から適切にその結論を導けるかどうか、である。 (H29学習指導要領国語編を参考)



パフォーマンス課題（単元末課題）

D市で、図書館の分館を一つ新設することになり、下の地図の「A ショッピングモール」の中と、「B スポーツセンター」の中が候補地となっている。下の地図と参考資料を踏まえて、A ショッピングモールと、B スポーツセンターのどちらがよいか、根拠を挙げて意見文にまとめよう。  
(教科書 106 頁参照)

パフォーマンス課題（単元末課題）の評価規準【ルーブリック】

	意見文の内容
A	詳しい説明や具体例を加えながら適切な根拠を挙げて、説得力のある意見文を書けている。
B	適切な根拠を挙げて、意見文を書けている。
C	意見文を書けているが、根拠が適切でない。

## 6 生徒観・指導観

本学級の生徒は、高い意欲をもって漢字の小テストに取り組むなど、主体的に国語の学習に取り組んでいる。しかし、2学期末に実施したアンケートでは、「授業の中で自分の意見や考えを他者に伝えていきますか。」という問いに対して、否定的な回答が約4割であり、そのほとんどが「自分の意見や考えに自信がない」という理由であった。この結果から自分の考えを持ち、他者に表現することに課題があると考えた。

また、2学期中間試験（令和4年9月実施）においては、二つの文章を読み比べ、「どちらの文章に共感できるか」という意見文を書く問題を出題した。解答の分析の結果、自分の考えと根拠を挙げるという意見文の基本的な構成は身についていた。一方、根拠が自分の考えと適切に結びついていない意見文や主観に偏っている根拠を挙げている意見文もあり、適切な根拠を挙げることに課題があると考えた。

本単元では、説得力のある意見文を書くことを目標に、前述した生徒の課題を克服させるために、次のような手立てをしていきたい。

- ① 少人数のグループを形成し、自分の意見や考えを表現しやすい環境をつくる。
- ② 自分の考えを表現するための補助道具として、JamboardなどのICTを活用する。
- ③ 頭括型、尾括型、双括型などの意見文の構成はあらかじめ提示し、構成を考えることの負担を減らすことで、意見文の内容に重点を置いた指導を行う。
- ④ 書くことが苦手な生徒には、書き始めを示すなど個別に手立てを行う。

## 7 単元目標

- (1) 意見と根拠の関係について理解することができる。
- (2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えることで自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

## 8 単元において育成しようとする資質・能力のかかわり

本校で育成しようとする資質・能力及び態度（○は本単元において育成しようとする資質・能力）

スキル	思考力・判断力・表現力	○	学習内容を活用し、現象が起こる理由を理論的に思考し、まとめている。
意欲・態度	主体性・積極性	○	課題を発見し、解決に向けて授業に意欲的、積極的に取り組んでいる。
価値観・倫理観	自己理解・自らへの自信		学習内容が日常生活に関係することを理解し、自信を持って学習に取り組んでいる。

## 9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意見と根拠の関係について理解している。	・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えることで、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	・進んで根拠の適切さを吟味し、学習課題に沿って意見文を書こうとしている。

## 10 単元計画【全5時間】

時		学習内容	評価
第1次 課題の設定	1/5	①パフォーマンス課題（単元末課題）及び評価規準について理解する。 ②説得力のある意見文を書くためには何が必要か考え、課題解決のための見通しをたてる。	思
第2次 内容理解	2/5	①意見と根拠の関係を復習する。 ②頭括型、尾括型、双括型などの意見文の構成を学習する。	知
	3/5 (本時)	①「A 集落」の立場で提示された根拠の例を比較して、適切な根拠と適切でない根拠に分類する。 ②分類をもとに適切な根拠の条件について考える。	思
	4/5	①「B 橋」の立場で根拠を個人で考える。 ② ①で考えた根拠が適切かどうかグループで吟味する。	思
第3次 パフォーマンス課題	5/5	①パフォーマンス課題（単元末課題）に取り組む。 ②単元を通して学習したことを振り返る。	思 主

1 1 本時の授業【単元計画 第2次の2時間目】について

(1) 本時の目標：進んで根拠例を吟味し、根拠の適切さを考えることができる。

学習活動	指導上の留意事項 (◇) 「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て (◆)	評価観点 (方法)
<p><b>課題の設定</b></p> <p>1 パフォーマンス課題を再提示し、前時の学習を振り返る。</p>	<p>◇電子黒板を使って、意見文の構成の振り返りを行い、説得力のある意見文を書くためには根拠が重要であることに気付かせ、本時の学習に必要性を持たせる。</p>	
<p>2 課題を確認する。</p>	<p>本時の課題：よい根拠の条件を考えよう。</p>	
<p><b>情報の収集</b></p> <p>3 「A集落」の立場で考えた根拠例を「より良い根拠」と「あまり良くない根拠」に分類する。</p> <p><b>整理分析</b></p> <p>4 グループで意見交流を行い、ホワイトボードにまとめる。</p>	<p>◇意見文は誰に向けて書く文なのか問いかけ、多くの人が納得できるものである必要性に気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>根拠① そもそもバスは、観光客のためにあるものではなく、住民のためにあるものであるため、A集落の住民が優先されるべきだと考えるから。</p> <p>根拠② 「C新聞」の記事には「A集落の約四割が高齢者」と書かれている。高齢になると車の運転が難しい人も増えると考えられる。もしバスが使えるようになれば中央駅にも行きやすくなり、移動がとても便利になるから。</p> <p>根拠③ 自分が家族や友人と旅行をするときは、必ず車を使って移動する。車での移動は、楽に時間を気にしないで移動できるメリットがあるので、観光地の滝の近くのB橋にバス停がある必要がないと考えるから。</p> <p>根拠④ 工事をすると、A集落の先の道路もバスが通ることができるから。</p> </div> <p>◇Jamboard を使って、自由に根拠例の付箋を移動させる。 ◆机間指導で活動内容を再度確認し、1つの根拠例を分類させる。</p> <p>◇グループ交流では、学習活動3で使った Jamboard を提示しながら、分類した理由を説明させる。 ◇説明を聞くときは、自分のタブレットを操作しないように指示する。</p>	<p>Ⅲ 進んで根拠例を分類している。(観察)</p>

